

今年もものがたりライブの季節がやってきます。
新宿ブーク人形劇場を舞台にして三年目の今年は、夏休み7デイズです。
ものがたりライブの理想は老若男女。大人と子どもがまざりあって
ものがたりをまんなかによいしょに笑ったり、かたずを飲んだり、
楽しい時間を共有することです。どうぞ、おでかけください。

今年のもものがたりライブは、とんち話を特集します。
実はとんちには「とんち」と「駄とんち(←ぼくの造語です)」があります。
駄とんちは駄じゃれ同様、ことばが似ていればそれでよしとするものです。
一休さんが「このはしをわたってはいけません」と書いてある橋を平然と渡って、
文句を言われると「はしは渡りません。真ん中を渡ってきました」といつてのける話は、
日本で一番有名なとんち話ですが、残念ながら「橋」と「端」が通音だというだけの
駄とんちです。

言った側は相手をやりこめて一時的に溜飲をさげるかもしれませんが、
やられた方にしてみれば、揚げ足取りの屁理屈に聞こえて嬉しくありません。
むしろ「ごさかしいやつ」と思うだけで、両者の関係を変えるふうにはならないでしょう。

そうではなく、ほんとのとんちとは、まず意外性があり、まわりに新しい視点を教え、
しかも人を幸せにしてくれるものでなければなりません。

夏の暑い日、馬方たちがのどが渇いた馬をひいて歩いています。
ところがやっと泉に着いたのに、水かさが減っていて、馬の口が水面に届きません。
桶もひしゃくもないし、馬方たちがこまっていると、ひこいちが来て泉にとびこみ、
みんなもとびこむようにといいます。

そこで馬方たちも泉に入ると水かさがあがって、馬の口が水面に届きます。
「言われてみればなるほど」と思え、そしてみんながハッピーになる上質なとんちです。
自分で考えるというのはこういうことかとも気づかされます。

今回のものがたりライブ7デイズでは、どの回にもそんな、気持ちのいいとんち話を
入れることにしました。あまり知られていない話もたくさんあります。お楽しみに。

また、今、ものがたりの世界で一番必要なのは「語り手」を増やすことよりも、
むしろ、若い親子が共にものがたりに親しむ場を日本のあちこちに作り、
おいでよと呼びかける「ひろめ手」です。

ぜひ、自分一人の楽しみにとどめず、ものがたりのひろめ手となって、
大勢の知人友人、近所の子どもに親戚の子どもなどをお誘いいただき、
夏休みの一日を楽しんでいただけたら嬉しく思います。

ゲスト、スタッフともどもお待ちしております。

2018.春 杉山 寛